

# 令和2年度 石狩地区の研究活動

研修部長 恵庭市立恵庭小学校  
校長 三科 圭介

## 1. はじめに

石狩管内小中校長会は、今年度98名（小学校61校、中学校37（義務教育学校1校を含む））の会員の総意の下で、研究計画を策定し、新たな時代の教育課題に対応するための研究活動をすすめている。平成28年度から30年度まで研究の積み上げをもとに令和元年度から3年度までの3年次計画を設定し、昨年度から新たな歩みをスタートさせた。



11/9 秋季学校経営研(石狩研修センター)

しかし、令和2年度当初の新型コロナウイルス感染症対応により組織的な研究の見通しが立たないと判断し、研究計画を1年先送りして4年次研究に変更、令和2年度は新たな研究課題を設定して研究活動をすすめることとした。

## 2. 研究計画

### (1) 研究主題

令和元年度～令和4年度（4年次計画） ※3年次計画から変更

「自立・協働し、未来を創る石狩の子どもを育成する学校教育の推進」

～「自立した人格」と「未来を切り拓く資質・能力」を育成する学校経営の在り方～

### (2) 協議題・課題（令和元、3、4年度は協議題のみ記載）

【第1協議題】令和元年度 「時代の要請に応える創意と活力ある学校経営の推進」

【特別協議題】令和2年度 「直面した課題に対応し、創意と活力ある学校経営の推進」

#### ■管内小中学校長会重点課題

① 新型コロナウイルス感染症対策により生じた課題を解決する教育活動の工夫改善

② 「働き方改革」の対応

③ 人材育成（管理職、ミドルリーダー、若手教員、女性管理職用、指導主事）

新型コロナウイルス感染症対策により生じた課題を解決するため、学習内容を確実に習得させるための教育課程の再編成を最重要課題と押さえ、全教職員が参画する体制の構築し、組織的計画的に課題解決を図る。

【第2研究題】令和3年度 「社会の信頼・負託に応える確かな学校経営の推進」

課題1 未来の教育を担う人材育成の推進

課題2 子どもと職員を守る安全教育の推進とサービス管理の徹底

【第3協議題】令和4年度 「社会の変化を柔軟に受け止め、子どもたちの確かな生きる力を育む学校経営の推進」

### (3) 研究方法

例年実施している学校経営研究会（春季・秋季）、ブロック研究会（2ブロック）研究集

録の作成による研究の成果と課題の還流の研究方法を見直し、感染症対応の中でできる範囲の実践をすすめた。

### 3. 研究の概要、研究活動など

#### (1) 管内小中学校長会研究会の企画と運営

【春季学校経営研究会】4月開催 ➡ 紙面交流

○全体会 全日中提言概要説明 小川 満 (千歳市立北斗中学校)

○分科会協議 小学校分科会提言：木谷金吾 (千歳向陽台小)、小玉智士 (石狩浜益小)

中学校分科会提言：石山雅之 (恵庭恵み野中)、小泉 寧 (江別第三中)

【秋季学校経営研究会】11月開催 ➡ 全体会のみとし、参加人数を制限して実施

○全体会 次年度研究計画説明 三科圭介 (管内校長会研修部長)

○研究協議 「教育課程の実施状況」各市町村事務局長による発表、協議

#### (2) 全連小・全日中・道小・道中研究大会対応と参加体制の確立

○コロナ禍により4つの大会がすべて中止

○全日中和歌山・市大会 第2分科会提言 小川 満 (千歳 中) …誌上提言

#### (3) ブロック別校長会の開催

○各ブロックを3分科会に分けて実施。提言資料は各市町村事務局長が作成

○Aブロック：主管市町村 北広島市

第1分科会提言：

村上俊司 (千歳東千歳中)、加藤紀子 (恵庭松恵小)、金森直人 (北広島広葉中)

第2分科会提言：

布施 裕 (千歳駒里中)、若林 晋 (恵庭恵み野小)、佐藤辰彦 (北広島東部小)

第3分科会提言：

佐藤 貢 (千歳北進小)、石山雅之 (恵庭恵み野中)、後藤章夫 (北広島西部小)

○Bブロック：主管市町村 当別町・新篠津村

第1分科会提言：

城野文久 (石狩樽川中)、蓑島裕二 (江別文京台小)、中村伸次 (当別当別中)

第2分科会提言：

吉田光岐 (石狩八幡小)、三浦崇史 (江別大麻東中)、伊東優子 (当別西当別小)

第3分科会提言：

丸山真嗣典 (厚田学園)、小松義幸 (江別第二小)、吉本浩志 (新篠津中)

#### (4) 研究集録第36集の発行 (例年2月発行予定)

○今年度は発行せず、令和3年度に36、37合併号として発行する。

### 4. おわりに

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策を受け、研究活動もさまざまな弊害が出てしまった。当初予定していた研究計画も1年足踏みしてしまったことは、致しかたないところである。しかし、その中でも実施できる最大限の方法で交流・連携が図れたことは、時代に即応できた新たな成果として感じたところである。

次年度以降に先送りした研究協議題についても単なる先送りではなく、今年度の経験を生かした新たな視点を加え、研究や実践につなげていかなければならない。校長として、子どもたちが生きる未来社会を見据えた明確な学校経営ビジョンをもち、創意と活力に満ちた学校経営を推進していくための学校組織の在り方、そして、学校改善に結びつく評価の在り方についての実践を、これからも(管内)組織的に積み上げていきたい。